

2026 年 6 月 5 日（金）開催 学術情報流通に関する連続セミナー 第 12 回

「AI が論文を書く時代に、査読について考える：

プレプリントとジャーナルの比較研究から」

開催報告

2026 年 6 月 5 日（金）13:30～15:00、研究大学コンソーシアム「学術情報流通の在り方に関する連絡会」主催による、学術情報流通に関する連続セミナー（第 12 回）「AI が論文を書く時代に、査読について考える：プレプリントとジャーナルの比較研究から」を開催しました。

今回は、東京大学大学院工学系研究科技術経営戦略学専攻博士後期課程の三浦千哲氏を講師に迎え、プレプリント（査読前論文）とジャーナル（査読済論文）という二つの出版モデルの比較を通じ、査読が果たす機能を検討する自身の研究が紹介されました。三浦氏からは、プレプリントの引用傾向の変化を踏まえつつ、査読が従来の選別機能を超え、研究者を発掘する機会としても機能している可能性が示されました。続くディスカッションでは、三浦氏と図書館職員、URA との間で議論が行われ、オープンアクセス論文掲載料の透明性、研究における AI 利用の在り方、研究評価など、学術情報をめぐる多様な論点を取り上げられました。また、三浦氏からは海外における先進的な事例も紹介され、参加者の関心を集めました。

質疑応答では、北陸先端科学技術大学院大学の小泉周副学長によるファシリテーションのもと、会場およびオンライン参加者から活発な意見が寄せられました。会場参加の出版社との意見交換も行われ、研究者、支援者、出版社といった主要なステークホルダーが立場を超えて意見を交わす貴重な機会となりました。

講演終了後に会場で開催されたアフターセッションには、対面参加者の多くが参加し、講師を囲んで活発な意見交換が行われました。

■参加者数 261 名（対面 32 名、オンライン 229 名）

■当日の様子



講演する三浦氏



三浦氏とディスカッションする URA と図書館職員



三浦氏の講演に聞き入る会場参加者

■アンケート結果 回答数：125

○所属機関

国立大学：86、私立大学：17、公立大学：4、民間企業：1、国立研究機関・官公庁：14、その他：3

○職種

職員（図書系）：59、URA：16、教員・研究職：22、職員（研究推進系）：9、職員（事務系）：6、出版関係者：1、学生：8、その他：4

○セミナーは参考になりましたか

参考になった：83、まあ参考になった：37

○ご意見・ご感想 ※公開の同意をいただいたものです。

- とても面白いお話をどうもありがとうございました。
- 制度設計論や価値観の生成・基準の話になってきていて個人的には満足ですが、こういう話がどこまで広まるか、ということも思います。
- そういうものだと受け止めていた学術情報流通システムや査読システムについて、一歩引いて考え直すいい機会になった。査読がボランティアなの変だと思ってたんだよな。
- 話題が多岐にわたり、ライブ感のあるとても刺激的なセミナーでした。わかりやすくご講演くださった三浦先生、また話題提供、モデレータの方々にも感謝します。
- 見方を変えると、みえてくるものも違うのだと感じました。たいへん勉強になりました。ありがとうございました。
- プレプリントは論文公表前に「先に出す」という理解でいましたが、もうそういう時代ではないのだということ、そこにオープンアクセスの投稿料の負担が関与すること、さらにAIによる論文執筆や査読など、自分の理解よりも世の中がずっと進んでいることに気づかされました。
- 大変興味深いセミナーでした。三浦先生には査読とAIと学術情報流通の問題をさらにつきつめていただきたいです。
- 今回、特に興味深く拝見させていただきました。講師のお話も非常に分かり易く丁寧で、動画を配信していただけるならもう一度視聴させてほしいと思います。
- 大変勉強になりました。分野によって状況は様々に異なるのだろうと実感しました。自分の所属するコミュニティの学術誌の一部では、プレプリントサーバに掲載した論文の投稿を禁ずるというポリシーの変更の動きもあるところ、今後も色々な試行錯誤が分野別にすすむのだろうと思いました。
- 貴重な機会をありがとうございました。普段研究していてAIには全く疎い（ようやくCopilotの講習を受けたくらい）ですが、プレプリントとジャーナルの比較から査読の機能をあぶりだすという研究の着眼点は大変面白く拝見しました。なんでもAIにやらせれば良い（あるいは逆にそれは不安だ）という直感的な意見を聞くことは多いですが、論文の執筆や査読をAIが行うことで何が起こるのか（メリットやデメリット）を具体的に議論するための判断材料となる情報が必要とされていると思いました。
- APCの適正価格とは何か、という視点が興味深かったです。査読者への対価を軸に考えることも必要というご意見はごもっともかと思いますが、質疑にあったように結果的に購読料に転嫁されるのではないかという懸念も残るのではないかと感じました。学術流通はもう流通していない、そのご意見も新鮮で、学術情報流通に携わる者とし

ては、今後どのように対応していくべきか、一層悩ましく思います。

- 査読の意義を改めて感じた。無償で行われてきて、AI の出現で弱いところを突かれてしまった、という状況かと思う。研究内容以外の点で考えなければならないことが研究者に増えているのは残念に思う。
- 大変興味深い内容でした。AI 利用の可能性も含め、査読の負担が軽減すれば良いと思う。
- 非常に有意義なセミナーでした。ありがとうございました。若手の斬新な発想で非常に興味深く、引き込まれて拝聴しました。自分の考えを整理することもできました。学術情報は流通していない。確かにそうですね。本学の URA や若手研究者にも聞かせたかった内容でした。アーカイブ配信を期待したいです。
- プレプリントにしか掲載されていないテーマの論文があり、そのテーマの論文の引用数が雑誌に掲載済みのプレプリントよりも高いことが興味深かったです。
- 分野毎の文化の違いや研究者（投稿者・査読者）自身の倫理観などケースバイケースのように思われ、一概に言えない問題ように感じましたが、新しい捉え方を提示していただけたと思います。ありがとうございました。
- とても興味深く、勉強になりました。
- 図書職員が持つ問題意識と全く異なる次元のお話で、大変興味深く拝聴しました。プレプリントやピアレビューが学術情報流通において様々な可能性を持っていると知り面白いと思いました。
- 「プレプリントは著者で選ばれる。」「ピアレビューで著者を発掘する。」など、なるほどと思いました。
- ご講演自体は、AI が論文を書く／査読するという点よりは、プレプリントとジャーナルが学術情報流通においてどのような異なる動きを見せているのかというのが主眼だったかと思いますが、興味深かったです。査読誌に掲載されれば実績の少ない研究者の論文でも引用されるというのは当然のようですが、それがキャリア形成の足がかりになっていくというのは、今後べつのかたちの学術情報流通（とりえず流通するものとして……）システムを模索していくうえでも軽視できないポイントだと思いました。
- 研究者、図書館員、URA の方などいろんな方のご意見をお伺いでき、大変参考になりました。
- 大変興味深いご発表をありがとうございました。常日頃、APC の詳細な内訳や相場に疑問を抱いていたので、APC の透明性確保を希求するという点には非常に共感しました。
- AI による論文作成の問題提起が中心に語られるのかと思っていましたが、初見の私にとってはとても新しい視点で面白く拝聴しました。10 年ぶりに研究の世界に戻ってきて、その中で AI との良い共存の仕方を模索するきっかけになりました。ありがとうございました。
- 査読がフィルタリングではなくキュレーションの役割を持っているのでは、というこ

とは驚きだった。学術情報流通の枠組みの再構成が迫られている今において、学術コミュニケーションの各要素が持つ真の意味を分析することは急務だと感じた。

- 講師の三浦先生のお話は、ご自身の研究に基づく知見を丁寧かつ分かりやすくご紹介いただき、大変興味深いものでした。特に、ジャーナルとプレプリントの公平性に関するお話の中で、プレプリントでは既に著名な研究者の方が引用回数が多くなる傾向があるという点は、ジャーナルとプレプリントの役割を考える上で新たな視点を得ることができました。
- いつも企画・運営をありがとうございます。茶話会でも講師の方をはじめ、多くの方々と意見交換できとても勉強になりました。